

資料2

研究課題	2 希少植物の種の保存及び地域資源としての活用に関する研究 (24-28)
研究目的・背景	<p>岩手県において絶滅の危険性が高まっている植物を対象に種の保存および地域資源としての活用を進める増殖技術の開発を検討する。</p> <p>特に本県の歴史や、文化・産業に深いかかわりを持つ植物を対象に種の保存および地域資源としての活用を進める増殖技術の開発を検討する。本研究で開発した技術は、国内の絶滅危惧植物の種の保存および本県の環境保全政策に役立てるのはもちろん、地域の産業振興や農業振興などの高度な要求に応えられるように取り組む。</p>
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・試験対象種の現状調査 ・増殖に関する研究 ・地域資源の活用に関する研究 ・増殖法の開発および培養苗の供給に関する研究 ・地域資源の活用に関する研究
評価結果	<p>○総合評価 A(4人)・B(2人)・C(0人)・D(0人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少植物の保護を目的とし、増殖を目指した新たな発芽を開発し成果を得るなど、評価できる研究課題である。地域ブランドの開発など、研究の推進を期待する。 ・高い研究成果が得られており、評価できる。今後のさらなる応用、発展が期待できる。 ・絶滅危惧種の保全と増殖に有効な研究として評価される。 ・県内の絶滅に瀕する植物は多く、目立たないものもあるが生物多様性の観点からそのような植物についても繁殖技術を確立する必要がある。 ・希少植物の増殖法として、新しく「種子カット法」を開発したという点で、見るべきものがある。ただし研究スタイルは孤軍奮闘の感があり、今後2年間の研究推進には内容の絞り込みが必要ではないか。 ・増殖や新品種を開発を保全につなげるような実用化が視野に入り始めていると感じた。多くの困難が伴うと思うが実現に向けて努力し、類似の希少種保全の参考ともなるよい先例を作っていただきたい。
センターの対応方針	<p>①研究計画のとおり実施 2一部見直しの上実施 3計画再考 4中止</p> <p>本県の歴史や、文化・産業に深いかかわりを持つ植物の種の保存は、県内各地域の自然環境の価値を高め、生物多様性の確保につながる。</p> <p>本研究により開発した増殖法を応用し、希少植物の保護のため、新たな増殖技術の開発を進めていく。また、他機関とも協働し、有用植物への培養方法の応用や、増殖技術の継承にも努めたい。</p>